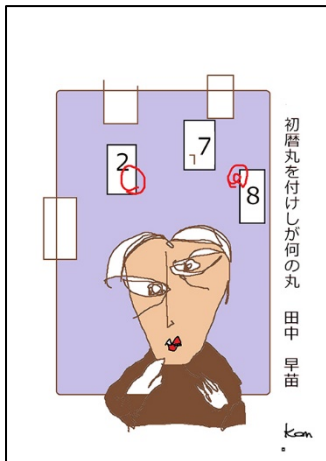


■今月の特選句

2020年2月



初暦丸を付けしが何の丸

田中早苗

時間、場所、要件を書かないと、「何の丸読者も新年から悩む」「つけるのが〇だけじゃダメ初暦」。句になりにくいものを句にして特選となった。



骨折に寝正月をば賜りぬ

久松久子

骨折して寝正月になってしまった。寝正月がマイナスイメージになったが、「賜りぬ」でプラスに見事に転換。楽天的思考で滑稽俳句も賜りぬ。



お年玉もらう時だけスマホ置く

高橋きのこ

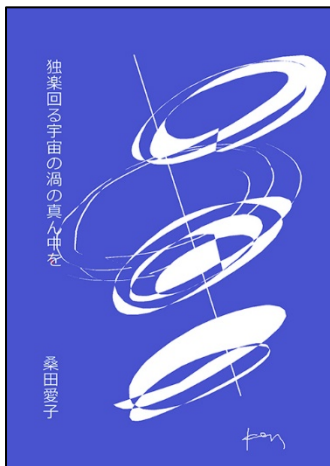
俳句は瞬間を描いて前後を想像してもらう。お年玉を貰う直前までスマホ、直後もスマホ。令和二年の正月の風景が記録されたね。



## 小顔には程遠きかな雪だるま

花岡直樹

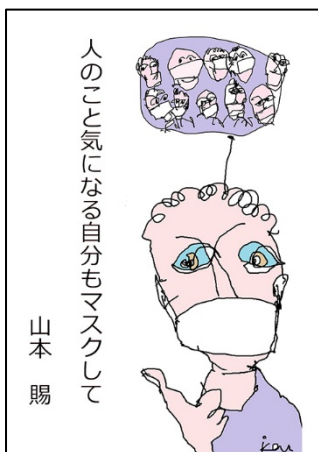
雪だるまが小顔だったら恰好いいのだろうか。否頭が大きいのがいいんだと作者は思っている。あのぽっちゃり体型こそ愛嬌がある。



## 独楽回る宇宙の渦の真ん中を

桑田愛子

大局的な視点がいいね。大宇宙も回転。太陽系も回転、太陽の周囲を回る地球もそして独楽も回転。入れ子細工かマトリョーシカの構造だね。



## 人のこと気になる自分もマスクして

山本 賜

マスクは表情を読めないから不愉快だし失礼よね。そう思う自分もマスクをしているという矛盾。この句も俳句になりにくい真実を詠んでお見事。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

犬の鼻つやつや黒き淑気かな ・・・いつもと違う輝き放つ	南とんぼ
煩惱の種を袋にお年玉 ・・・悩んだ末に額の決まりし	柳 紅生
装束だけは一人前の煤払ひ ・・・やる気だけなら誰にも負けぬ	田村米生
儂さを惜しむ牡丹の雪となり ・・・溶けなくなったらおおごとじゃんか	井口夏子
ケーキ・ペン・雪山みんなモンブラン ・・・喫茶店にもそんなのがある	荒井 類
大吉が目当て初詣のはしご ・・・その執着を煩惱と言ふ	石塚柚彩
しあはせと言へばさうかも蒲団干す ・・・不幸を嘆く時は叩いて	稲沢進一
百姓が逝く冬に穴開けたまま ・・・大根抜きし跡のごとくに	鈴木和枝
その中に笑はぬ男初笑 ・・・おそらく奴はKYならむ	相原共良
大口を開けて祝儀をねだる獅子 ・・・額の多少で噛み方に差が	稲葉純子
寒暖の差を鼻センサーで小正月 ・・・鼻の探知機電源不要	岡田廣江
股火鉢隙間の多き家に住み ・・・昭和の記憶今は懐かし	伊藤浩睦
雑煮餅歯のご機嫌をそこねたる ・・・高価な入れ歯外さうとして	吉川正紀子

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

勝ち名乗りボスの座いとめ寒鴉  
 板蕪蕪が痛い痛い針供養  
 腹中に一物を秘め人と河豚  
 裸木になりボデイビル競い合う  
 太陽にパニックッテみる雪達磨  
 昼替する昼屋の足袋に穴  
 世の中は年忘れ我は物忘れ  
 ホールで第九帰つて第九年詰まる  
 アベ政治のしたい放題九条葱  
 若水の濃茶点前に足しびれ  
 葉隠れに子だくさんのシクラメン  
 せめくるや病魔新たに老いの風邪  
 猪駆ける干支の終りのごあいさつ  
 鍋奉行は孫とてじいじに葱賜う  
 ウォーキングの五臓六腑に那須おろし  
 お正月子と孫合はせて十三人  
 許し乞ふ薬缶頭に風光る  
 火山国地震国日本山笑う  
 要注意失言大臣春颯  
 聞き飽きた令和最初のお正月  
 クリスマス一週間後に神詣  
 落葉踏む人の気配のなかりけり  
 忘れたることをわすれて十二月  
 淑気満つトイレの神も深呼吸  
 年男年女となり嫁が君  
 第九とてうつらうつらの掘炬燵  
 盗人の尻跡のある大根畑  
 手間の無きネット送信お年玉  
 椿とはなれずピンクの山茶花は  
 鯛焼きくんの唄を諳んじ吸入器  
 冬芽を見つけ街路樹の枯枝に  
 出刃を呑むかに俎板の大鮪  
 女正月無為にすごしてこそもの  
 花を活く鋏の音の響きかな  
 白梅のふふむや色の無き庭に  
 鴨川に押し合ひ圧し合ひユリカモメ  
 初空の真青をジャンボ悠悠と  
 大根買ふコインロッカーにワンコイン  
 破れ芭蕉のはずがまだまだ蒼蒼と  
 自撮りなれど頭上にしかと冬紅葉  
 初神籤さらりと結びさようなら  
 AIのひばり歌へば冬うらら  
 神ごとに賽銭箱や冬日和

相原共良  
 相原共良  
 青木輝子  
 青木輝子  
 青木輝子  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 荒井 類  
 荒井 類  
 井口夏子  
 井口夏子  
 池田亮二  
 池田亮二  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 伊藤浩睦  
 伊藤浩睦  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲葉純子  
 稲葉純子  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 上山美穂  
 上山美穂  
 上山美穂  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅野光子  
 梅野光子  
 梅野光子  
 太田史彩  
 太田史彩  
 太田史彩  
 大林和代  
 大林和代

## 福袋一家総出の走り込み

落としては拾ひきれない福袋

弥栄(いやさか)を祈り籤引く初詣

毛糸編む指のごつごつ若嫁御

ひらがなの雲北風に乱さるる

四日さて滑稽俳句でも捻ろうか

紙おむつ穿いて安心大嚏

去年今年危惧した程の事もなく

四国の山残雪ありや遍路旅

遍路道スマートフォンが道しるべ

御仏に会わんとて我遍路旅

肩こりに獣(けもの)のコートずっしりと

発熱と頭痛に載せる冬帽子

肩は凝り頭はアホに大根引く

掛け合ひの声歳晩の客となり

さざんかをちらして歩く赤い靴

蔵町の路地を迷へり耳袋

書初のトメハネに在る師系かな

真白なる休暇雪原も句帳も

腹の虫夜鳴蕎麦屋に起こさるる

沢庵を切りしつもりが数珠つなぎ

天井の節穴数へ冬籠

吊るし柿取り込む時期をしくじりぬ

手作りのお節が箸に狙はれる

クリスマステレビに合はせ子が踊る

上州の空っ風きりんの首揺らす

由美かおる真似ての掛湯冬の宿

冬の夜のヤンキー集会縦社会

ものぐさに非ず不器用煤払ひ

マスクした医師パソコンとにらめっこ

小心を隠したつもりの懐手

元号を跨いだ年の除夜の鐘

さりげなく自慢の書かれ年賀状

二〇〇本の玉葱植え早生とは誰も気付くまい

募金箱抱く少女にありがとう

獅子舞の奥歯がたがたさせ脅す

政治家の右往左往のにごり酒

客はなし犬猫今日も寝正月

初電話アポ電かもと誰も出ず

日向ぼこするには寒し日向灘

お若いと言はしむ老の薄コート

雪暮らし凄いの文字に女かな

年酒酌むちよこに駄洒落を山盛りに

小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

岡田廣江

岡田廣江

小川鮎太

小川鮎太

小川鮎太

金城正則

金城正則

金城正則

久我正明

久我正明

久我正明

工藤泰子

工藤泰子

工藤泰子

桑田愛子

桑田愛子

小林英昭

小林英昭

小林英昭

近藤須美子

近藤須美子

近藤須美子

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

白井道義

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴木和枝

鈴木和枝

高田敏男

高田敏男

高田敏男

高橋きのこ

高橋きのこ

竹下和宏

竹下和宏

竹下和宏

マラソンのラストスパート寒の空	龍田珠美
飼犬が二の足を踏む霜の朝	龍田珠美
雨にも負けず風にも負けずボケの花	龍田珠美
寒鴉人間様に落とし前	田中 勇
老人にかまってくれるな風邪の神	田中 勇
恍惚のクダリニーや仏の座	田中 勇
雪降らず拍子抜けするサンタかな	田中早苗
手土産に持つて来られしインフルエンザ	田中早苗
こめかみに来ている寒の痛さかな	田中晴美
その香にて品種がわかる花蜜柑	田中晴美
ミネストローネをストローで吸ひ冬の卓	田中晴美
貰ひものばかりの種やおでん鍋	田村米生
年用意妻の口数減らぬまま	田村米生
除夜の鐘ゴーンと響くレバノンへ	月城花風
駆け込むもシマッタ！コンビニ初旦	月城花風
ラグビーの反則復習しつつ観て	月城花風
除夜の鐘百と八つじゃ足りません	土屋泰山
年賀状読んでばかりで書かぬ母	土屋泰山
初詣戦争ない世に浅草寺	土屋泰山
行く年も来る年も又万年目	飛田正勝
兎小屋分相応の松飾る	飛田正勝
二つ灯を点し老老長き夜	飛田正勝
屋根裏に問えば今年の中と言う	西をさむ
はや二日CO2を積み増して	西をさむ
三日には来年の事口にする	西をさむ
みちのくの旅や寒鰯の雑煮膳	橋本愛子
初富士や白にまみれてしまひたる	橋本愛子
初御空霊峰富士をしたがへて	橋本愛子
新春の道後車は全国区	花岡直樹
お重ねにたかが二段とビール腹	花岡直樹
食積に健康害す恐れかな	林 桂子
二日三日も神に呼ばれて初詣	林 桂子
人も車も牛歩となりぬ初詣	林 桂子
冬ごもりどこでもドアのタブレット	原田 暉
魂を抜かれてゐたり炬燵の子	原田 暉
究極の願ひをしたり初詣	原田 暉
寒の手術十三日の金曜日	久松久子
ギブスの手にバイバイして山眠る	久松久子
また一つ歳をとるわと初電話	日根野聖子
おめかしもおでかけもなし二日かな	日根野聖子
世の雑事蠢き始める四日かな	日根野聖子
湯豆腐が好き猫舌のマルチーズ	廣田弘子
ぽっくりを願ふ柏手初詣	廣田弘子
健健八げんきで学ぶ初句会	廣田弘子
全種類制覇の野望おでん食ふ	堀川明子
張りぼての背なにぺたぺたカイロ貼る	堀川明子
福袋買ふや清濁併せ呑み	堀川明子

しんしんは静寂の音霜の夜

深窓に生きるにあらず冬籠

探梅の俳句を嘆き赤のれん

窓越しのわたくしだけの初日の出

来てくれてどっと疲れてお正月

回し車子年七度の走り初め

初夢の中も必死の探し物

繭玉や枝垂るる情と張る意地と

戌(いぬ)や申(さる)連れて子年の初詣

AIに負けてはをれぬ寒稽古

蜜柑剥く赤子のおむつ替ふやうに

神無月仏の顔も三度まで

やり残ししこと多かりし煤払ふ

喜寿にして恋する男淑気立つ

屠蘇祝ふをみな大きな欠伸かな

ひよいと来て拝み倒すや初日の出

尽日に尋ねるところなかりけり

老ゆるとは俗世脱ぐこと落葉道

諍へる友また恋し冬の雲

胸躍る白紙のページお元日

箸くわえ微熱はかられ湯豆腐は

生と死を見つめておりぬ独楽遊び

大布団母の寝技のおさえこみ

涙ぐみ潤目鯛と呼ばれみる

埋火や胸の思ひに例へられ

大黒か恵比須かぶつとい霜柱

木枯の韋駄天走り中央区

風の子を自慢したれば風邪の子に

雪起こし粘土の像の鼻を折る

湯たんぽに実は名前をつけている

竹馬に乗ればなんだか強くなる

冬籠できるところはトイレだけ

北風の八つ当たりせしシャッター街

歴代の美女は彼の世に初鏡

まか不思議佛教徒でもクリスマス

鏡餅隣に鎮座の子猫かな

公園の鳩も一緒に日向ぼこ

本門明男

本門明男

本門明男

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

峰崎成規

椋本望生

椋本望生

椋本望生

村松道夫

村松道夫

村松道夫

村山好昭

村山好昭

村山好昭

百千草

百千草

百千草

森岡香代子

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八洲忙閑

八洲忙閑

八洲忙閑

八塚一青

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳澤京子

柳澤京子

柳澤京子

座つたら最後動けぬ冬座敷  
北窓を塞ぎようなき古家かな  
止り木を降りて寒夜の人になる  
松過ぎて普段暮らしに落ちつきぬ  
初金比羅五人百姓の飴買ひて  
初夢や意味のわからぬメッセージ  
手袋のこと恋しかり今朝の今朝  
お手頃の暖房器具や摩擦熱  
ゆつくりと大きくなりぬ亥の子歌  
母に次ぎ姉まで送り冬となる  
スマートフォンに替えてあたふた年の暮  
初春や殻を破れば飛び立てる  
あの人ほどの色選ぶシクラメン  
騒めく冬となり駒沢オリンピック公園  
簡素化で降臨できぬ年神様  
令和の子スマホ片手に歌がるた  
三が日過ぎて日常戻りけり  
黄葉の終ひはすねて道ふさぐ  
木枯が覗いて行きし胸の内  
この家の定点観察初写真  
面影を確かに見つけ年賀状  
アパートの掃除機たちも四日かな  
花八手母は御襦袢(おむつ)を隠したる  
寒風の所為に鍵穴定まらず  
幼子が正月を連れ駆けて来る

柳村光寛  
柳村光寛  
柳村光寛  
山岡純子  
山岡純子  
山岡純子  
山下正純  
山下正純  
山下正純  
山下正純  
山田真佐子  
山田真佐子  
山田真佐子  
山田真佐子  
山本 賜  
山本 賜  
横山洋子  
横山洋子  
横山洋子  
吉川正紀子  
吉川正紀子  
渡部美香  
渡部美香  
渡部美香  
和田のり子  
和田のり子  
和田のり子